

Nihonbashi Opera Tokyo 2023

First performance in Asia

GUSTAVO III

Giuseppe VERDI



日本橋オペラ
NIHONBASHI
OPERA TOKYO

日本橋オペラ 2023

日本初演シリーズ 第3回

歌劇 グスターヴォ三世

ジュゼッペ・ヴェルディ



Wednesday, November 15, 2023 Nihonbashi Theater Tokyo

2023年 11月 15日 (水) 日本橋劇場



福田祥子

日本橋オペラ研究会(中央区社会教育団体)会長
一般社団法人日本橋オペラ研究会理事長

ご挨拶

本日は日本橋オペラ「日本初演のオペラ」シリーズ第3回 ヴェルディ「グスターヴォ三世」にお越しいただき、ありがとうございます。「グスターヴォ三世」のあらすじや楽曲解説は後ろのページをご覧ください。

日本橋オペラ研究会では2021年に、長崎が舞台のフランスオペラ「お菊さん」と、日本橋出身の川上貞奴の生誕150年を記念した「貞奴姫」の2つのオペラを日本初演して、大きな反響をいただきました。その「お菊さん」を「日本初演のオペラ」シリーズ第1回、「貞奴姫」を同シリーズ第2回と追冠して、本日が同シリーズ第3回の公演といたします。また来年5月5日には、こちらの日本橋劇場で、同シリーズ第4回として、同じ原作から作曲された2つのオペラ、ドメニコ・モンレオーネとマスカーニの「カヴァレリア・ルスティカーナ」を同時上演します。単に「日本初演」といっても、いわゆる「ありもの」の楽譜ではなく、いずれも楽譜の編集や修復をする必要があり、その準備には最低でも1年以上必要です。なお日本初演は、ほぼアジア初演も意味します。近年の日本のクラシック界は、隣国の韓国や中国と比較して、世界から大きく遅れをとっています。そのような中、大作曲家の名曲を発掘、アジアで初めて上演する価値を知って頂きたく思います。私たちが研究・編集した楽譜は、できるだけインターネットで公開して、世界の音楽界に貢献して参ります。

福田祥子 (Shoko Fukuda) 演出・ソプラノ／アメリア役

大阪音楽大学ピアノ科卒業。大阪芸術大学大学院声楽専攻修了。東京二期会オペラ研修所本科首席修了、優秀賞受賞。これまで、ワルキューレ、ジークフリート、神々の黄昏、トリスタンとイゾルデ、さまよえるオランダ人、タンホイザー、アイダ、蝶々夫人、椿姫、ドン・カルロ、トゥーランドット、トスカ、イリス、オテッロ、イル・トロヴァトーレ、仮面舞踏会、エフゲニー・オネーギン、パリアッチ、お菊さん等にそれぞれ主役級の配役で出演。『圧倒的にして鮮烈な歌声と存在感。生まれながらのブリュンヒルデ』(音楽現代)と批評を受ける。日本人としては稀有の本格的ワーグナーソプラノでありながら、ヴェルディ、プッチーニといったイタリアオペラまで、広範囲のレパートリーを有する貴重な存在である。ウィーンとバイエルンの両国立歌劇場で研修を受け、近年はスタラ・ザゴラ国立歌劇場(ブルガリア)などで、蝶々夫人、トスカの主役として度々出演、絶賛されている。また日本各地をはじめ、オーストリア、ドイツ、ブルガリア、チェコ、トルコ、イスラエル、フィリピンなどで、リサイタルやオーケストラと共演をしている。東京二期会、関西二期会各会員。日本橋オペラ会長。一般社団法人日本橋オペラ研究会理事長。

佐々木 修 (Osamu Sasaki) / 指揮



青森県弘前市出身。武蔵野音楽大学卒業。オーストリア政府奨学生。モーツァルトウム音楽大学指揮科最優秀卒業。カラヤン、チェリビダッケなどの巨匠に師事。モーツァルトウム音楽大学オーケストラ常任指揮者をつとめる。1979年カラヤン国際指揮者コンクール入賞。1982年東洋人として初めてザルツブルク国際モーツァルト週間で指揮「心から自然でしなやか、新鮮なモーツァルト指揮者」(オペラ・コンツェルト誌)と好評を受け、国際モーツァルトウム財団よりパウムガルトナーメダルを授与される。1984年ベルリン・ドイツ響を指揮してドイツデビュー。帰国後、日本各地のオーケストラや合唱を指揮。またNHK-FMシンフォニーコンサート等のパーソナリティ、タモリの音楽は世界だ!等の音楽番組制作、映像・CD・WEB制作、AI特許、女性のためのモバイルコンテンツ「ルナルナ」の創設、開発に携わるなど、マルチなタレントで活躍。(株)マエストロ代表取締役。日本橋オペラ常任指揮者。一般社団法人日本橋オペラ研究会理事。

伊藤友香 (Yuka Ito) / ピアノ



京都市立堀川高校音楽科を経て、京都市立芸術大学音楽学部ピアノ科卒業。第4回日本クラシック音楽コンクール入賞。アムステルダム国立音楽院に留学、ミュージックポストグラデュエイトコースにてヴィレム・ブロンズ氏に師事し、ディプロマを得て修了。オペラ、歌曲やカンツォーネのレパートリーを幅広く持ち、声楽家の共演ピアニストとして活躍中。様々な団体のオペラプロジェクトに関わっている。

村上俊明 (Toshiaki Murakami) テノール / グスターヴォ三世役



国立音楽大学声楽学科卒業。文化庁在外研修員他の奨学金を得て、2001年より2007年までイタリア・ボローニャに留学。2002年に、オルヴィエート・マンチネッリ劇場にて「リゴレット」マントヴァ公爵でヨーロッパデビュー。藤原歌劇団「ラ・ボエーム」「ルチア」「仮面舞踏会」、新国立劇場「椿姫」「蝶々夫人」「愛の妙薬」「カルメン」等に主演し、常に最大級の賛辞を受けている。第9回マダムバタフライ世界コンクール優勝のほか、15の国際声楽コンクールで優勝または上位入賞。2004年には、第40回日伊声楽コンクール第1位、第35回イタリア声楽コンクール・シエナ大賞と、国内2大タイトルを獲得し話題を集める。2012年より、NHKニューイヤーオペラコンサートに12年連続出演。平成16年度五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。八王子コミュニティーオペラ芸術監督。勝浦歌劇団総監督。藤原歌劇団団員。人気実力ともに日本を代表するテノール歌手として、活躍の幅を広げている。

寺田功治 (Koji Terada) バリトン / アンカストレム伯爵役



東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。英国ギルドホール音楽演劇学校大学院修士課程オペラコース修了。ネザールランド・オペラ・スタジオ研修生修了。小澤征爾音楽塾プロジェクト、及びサイトウ・キネン・フェスティバルにて小澤征爾氏と度々共演。アイルランド・ウェックスフォード・フェスティバル・オペラではこれまでに数々の公演に出演。第11回コンセール・マロニエ21第1位。第7回エレナ・オブラスツォワ国際声楽コンクール第3位。2011年度 英国クランター・オペラ賞と共に聴衆賞授受。2012年度レ・アズリアレ賞受賞。第85回日本音楽コンクール声楽部門第2位。第37回飯塚新人音楽コンクール第1位。

森山京子 (Kyoko Moriyama) メゾソプラノ / ウルリカ役



国立音楽大学卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリア・ミラノへ留学。ドイツ・ライプツィヒ歌劇場と2シーズン契約。イタリア・ベルガモドニゼッティ歌劇場、ルーマニア国立歌劇場に出演。新国立劇場、藤原歌劇団、日本オペラ協会、びわ湖ホールプロデュースオペラ、東京室内歌劇場、東京芸術劇場、全国共同制作プロジェクトオペラなどに多数出演。新国立劇場開場20周年記念特別公演「アイダ」ではアムネリス役で急遽出演し好評を得た。他、野田秀樹演出「フィガロの結婚〜庭師は見た」、日本オペラ「源氏物語」(世界初演)などに出演。NHK ニューイヤーオペラコンサート、NHKFM に出演。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。

森 朋子 (Tomoko Mori) ソプラノ / オスカル役



東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。同大学大学院オペラ研究領域修了。大川隆子、篠崎義昭の各氏に師事。在学中、特待生奨学金を得てモーツァルトウム・サマーアカデミーに参加。オペラでは「ラ・ボエーム」ミミ、足利オペラ・リリカ「ジャンニ・スキッキ」ネッラ、新宿区民オペラ「仮面舞踏会」オスカル、オペラ彩「秩父晩鐘」キク等を演じる。近年フランスオペラの分野で研鑽を積み、MOA アルバム企画旗揚げ公演ではプーランクのモノオペラ「人間の声」に主演し、高い評価を得た。本年はマスネ「マノンの肖像」ジャン役にて出演。交響的物語「ピーターと狼」では、ナレーターを務める。二期会会員。足利オペラ・リリカ登録アーティスト。

川ノ上 聡 (So Kawanoue) バリトン / リッピング役



鹿児島県出身。国立音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラ研修所修了。平野忠彦氏に師事。これまでオペラでは『フィガロの結婚』フィガロ役、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ役、『こうもり』フランク役などに出演。またミュージカルにも出演している。喜劇から悲劇まで役を細かく演じる歌声と芝居に好評を得ている。

星田裕治 (Yuji Hoshida) バリトン / ホルン役



大阪府交野市出身。北海道大学教養学部水産系中退、東京藝術大学音楽学部声楽科バス専攻入学、同卒業。シベリウスとドイツ歌曲、ガンバ大阪をこよなく愛する。『魔笛』『仮面舞踏会』『ラ・ボエーム』『カルメン』『あまんじゃくとうりこひめ』等数多くのオペラ・コンサートに出演、今年2月『ラインの黄金』神々の長ヴォータン役では喝采を浴び、9月『椿姫』医師役、11月『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコ役で出演。また「星ふる里に 歌声を」と銘打って郷里での演奏活動を2019年より始め来秋には『椿姫』ハイライトを計画している。他にもサロンコンサートや音楽鑑賞教室等精力的に活動している。豊島オペラ協会会長、日本シベリウス協会会員。

野村光洋 (Mitsuhiro Nomura) バリトン / クリステアーノ役



国立音楽大学声楽専攻卒。東京藝術大学別科、同大学院声楽専攻独唱科修了。これまで『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『セヴィリアの理髪師』『ドン・パスクアーレ』『ラ・ボエーム』『道化師』『イル・トロヴァトーレ』『ナブッコ』等多くのオペラにて主要な役を務め、近年は『仮面舞踏会』レナート(新宿区民オペラ)『ヘンゼルとグレーテル』ペーター(神奈川県民ホール、みんなと楽しむオペラ)『愛の妙薬』ベルコーレ(荒川区民オペラ)等出演した。二期会公演では『子供と魔法』『ドン・カルロ』『リゴレット』『ナクソス島のアリアドネ』『天国と地獄』『メリーウィドー』『平和の日』に出演した。二期会会員。



種子島史時 (Fumitoki Tanegashima) テノール / 判事役・アンサンブル
神奈川県出身。桐朋学園芸術短期大学音楽専攻声楽専修卒業。声楽を小野弘晴氏に師事。第32回全日本Jr.クラシックコンクール大学生の部全国大会入選。オペラでは「カルメン」(レメンダード)「ノルマ(フラヴィオ)」「仮面舞踏会(判事、召使)」「トゥーランドット(パン)」等出演。



根岸一郎 (Ichiro Negishi) テノール / 召使役・アンサンブル
武蔵野音楽大学声楽科、早稲田大学第一文学部仏文専修卒業。パリ第IV大学比較文学修士課程修了。アンリ・ソーゲ国際コンクール、日仏声楽コンクール、フランス音楽コンクールに入賞。フランス近代歌曲での評価は特に高く日仏声楽コンクール審査員を務める。東京室内歌劇場、日本フォーレ協会他会員。



高橋千夏 (Chinatsu Takahashi) ソプラノ / アンサンブル
昭和音楽大学卒業。第1回日本歌曲コンクール奨励賞受賞。W. マッテウツィ、M. デヴィーア、D. マッソーラ各氏によるマスタークラスを受講。第82回読売新人演奏会に出演。『修道女アンジェリカ』『カルメン』『フィガロの結婚』『お菊さん』(日本初演)などに出演、音楽の友、モーストリー・クラシックなどの好評を得る。



森井美貴 (Miki Morii) ソプラノ / アンサンブル
大阪音楽大学卒業、同大学専攻科修了。第34回飯塚新人音楽コンクール第一位、第47回なにわ芸術祭新人賞、第28回宝塚ベガ音楽コンクール宝塚演奏家連盟賞。大学在学中に佐川吉男音楽賞奨励賞を受賞した「椿姫」でオペラデビュー後、オペラを中心に活動を広げる。NHK-FM「リサイタルノヴァ」出演。関西二期会準会員。



東山桃子 (Momoko Toyama) ソプラノ / アンサンブル
岩手県出身。東京藝術大学を首席で卒業。同大学院修士課程修了。在学中に安宅賞、卒業時に松田シ賞・アカンサス賞・同声会賞受賞。サントリーホール オペラ・アカデミー修了。《メサイア》《ドイツ・レクイエム》などの宗教作品でソリストを務める。声楽を大村博美、菅英三子、G. Sabbatiniの各氏に師事。



石井揚子 (Yoko Ishii) ソプラノ / アンサンブル
埼玉県出身。法政大学法学部卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。オペラでは「フィガロの結婚」スザンナ役、「人の声」女役、「子供と呪文」子供役、「電話」ルーシー役、「チェネレントラ」クロリンダ役、「カルメン」フラスキータ役、「魔笛」パバゲーナ等出演。藤原歌劇団準団員、日本オペラ協会準会員。



伊藤いずみ (Izumi Ito) ソプラノ / アンサンブル
洗足学園音楽大学声楽コース卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第41期生修了。現在、藤原歌劇団準団員及び日本オペラ協会準会員。《ヘンゼルとグレーテル》眠りの精役、《魔笛》侍女II役、《ラ・ボエーム》ムゼッタ役などに出演。これまでに須永尚子、佐藤亜希子、南條年章の各氏に師事。



窪 瑤子 (Yoko Kubo) メゾソプラノ／アンサンブル

日本大学芸術学部卒業。東京音楽大学大学院修了。第 57 期二期会オペラ研修所修了。スペイン音楽国際講習会にスペイン政府の奨学金を得て参加。第 48 回新潟県音楽コンクール声楽部門最優秀賞。山形交響楽団とソリストとして共演。劇団東俳、各音楽教室で後進の指導にあたる。二期会スペイン音楽研究会会員。二期会準会員。



宇津木明香音 (Akane Utugi) メゾソプラノ／アンサンブル

昭和音楽大学卒業。同大学院修了。大森智子、松浦麗の各氏に師事。昭和音楽大学オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」ドラベッラ役でデビュー。これまで「ファルスタッフ」クイックリー役、「カヴァレリア・ルスティカーナ」ルチア役、「修道女アンジェリカ」修道院長役、「フィガロの結婚」マルチェッリーナ役などに出演。



佐々木暁美 (Satomi Sasaki) メゾソプラノ／アンサンブル

これまでに声楽を河野克典氏、手嶋眞佐子氏、山下牧子氏、小林由樹氏に師事。また、V. ルキアネッツ氏、M. デヴィーア氏、D. ビツィック氏のマスタークラスを受講。《フィガロの結婚》ケルビーノ《こうもり》オルロフスキー公爵などのズボン役を主なレパートリーとする。



西山詩苑 (Shion Nishiyama) テノール／アンサンブル (グスターヴォ役アンダー)

東京藝術大学および同大学院オペラ専攻修了。平成 28 年度公益財団法人青山財団奨学生。第 8 回日光国際音楽祭声楽コンクール入賞。Reiner Trost 氏のマスタークラス受講。第 67 回藝大オペラ定期公演《魔笛》にタミーノ役で出演。ヘンデル《メサイア》のソリストやバッハ《マタイ受難曲》の福音史家で出演。



町村 彰 (Akira Machimura) テノール／アンサンブル

東京大学大学院修士課程修了。現在「聖グレゴリオの家」の教会音楽科在籍中。永井宏氏に指揮法を、青木洋也、大山大輔、T. ブファイファーの各氏に声楽を学ぶ。過去にバッハ『マタイ受難曲』福音史家、モーツァルト『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『レクイエム』テノール／バスソリストなどに出演。



山本雄太 (Yuta Yamamoto) テノール／アンサンブル

秋田県出身。福島大学人間発達文化学類芸術創造専攻に打楽器専攻として入学、2 年時に声楽へ転向。同大学院修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。第 21 回秋田県青少年音楽コンクール金賞受賞。日本トスティ歌曲コンクール 2023 第 5 位入賞。『アンドレア・シェニエ』修道院長役でデビュー。二期会準会員。



佐保佑弥 (Yuya Saho) テノール／アンサンブル

大分県出身。これまでに G. ドニゼッティ《愛の妙薬》ネモリーノ役、G.F. ヘンデル《メサイア》、L.v. ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》のテノールソロを務める。また、劇団四季主催ミュージカル《ノートルダムの鐘》にクワイヤとして参加。新国立劇場合唱団コンサートメンバー。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。



原田光 (Hikaru Harada) バリトン／アンサンブル (アンカストレム役アンダー)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程声楽専攻修了。大学院在学中には奏楽堂にて藝大第九～チャリティーコンサート vol.6～にてバリトンソロで出演。オペラ、宗教曲、歌曲と幅広く活動している。今年 8 月にはセイジ・オザワ松本フェスティバル室内楽部門リートデュオにて出演。



倍田大生 (Taisei Masuda) バス／アンサンブル

山梨県富士吉田市出身 国立音楽大学卒業、及びオペラ・ソリストコース修了、同大学院修士課程オペラコース修了 渡辺公男、矢田部一弘、山下浩司 各氏に師事 これまでに「フィガロの結婚」バルトロ役、「コジ・ファン・トゥッテ」ドン・アルフォンソ役などに出演 二期会準会員。



服部 聖人 (Masato Hattori) バス／アンサンブル

声楽を佐藤泰弘、故日比啓子の諸氏に師事。これまでに「ラ・ボエーム」アルチンドロ役「カルメン」モラレス役、「ウェルテル」アルペール役、「リゴレット」マルッロ役。またトアサマリ名義にて漫画作品や絵を制作。動画作品「漫画 de バロック音楽」では作画と演奏で参加し公開。洗足学園音楽大学 演奏補助要員。



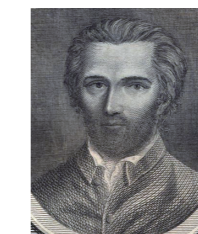
実在した登場人物



グスタフ3世
(1746-1792)



A.ウルリカ
(1734-1801)



J.J.アンカストレム
(1762-1792)



A.リップピング
(1765-1843)



C.F.ホルン
(1763-1823)

スウェーデン国王グスタフ3世は、ロシアやデンマークと戦って勝利し、ヨーロッパでの名声を高めた。国政では、無血クーデターにより、それまで貴族が握っていた権利を奪還、絶対君主として君臨した。またグスタフ3世は文芸を推奨して、特に演劇やオペラを愛し、自ら台本を書いたほどであった。1786年には、現在のノーベル賞選考委員会に繋がるスウェーデン・アカデミーを設立。国民からは敬愛された一方、貴族からは恨まれ、1792年3月16日オペラ座の仮面舞踏会でアンカストレム伯爵により狙撃され、二週間後に死去した。ウルリカ・アルヴィドソンは、当時スウェーデンでは有名な占い師。グスタフ3世も時折訪れ「剣を持つマスクをした人に気を付けるよう」警告された。アンカストレム(発音:アンキヤルストレム)は、下級貴族の出身で伯爵。元近衛士官としてグスタフ3世に仕えていたが、絶対王政を敷いたグスタフ3世に強い反感を抱き、1792年オペラ座の仮面舞踏会でグスタフ3世を銃撃する。暗殺の主犯者として同年、処刑された。リップピングとホルンはいずれも軍人、伯爵で、グスタフ3世暗殺に関与したとして死刑判決を受けたが、後に恩赦を受けて追放された。

歌劇「グスターヴォ三世」あらすじ

時と所：1792年、スウェーデン

<第1幕>

第1場/ストックホルムの宮殿

朝。宮殿内の広間では、代議員達が国王グスターヴォ三世の謁見を待っている。部屋の中には、密かに国王への反乱を企む反逆者達も交じっている。小姓のオスカルが国王のお出ましを告げる。オスカルが国王に舞踏会の招待者リストを渡すと、国王はリスト



ドロットニングホルム宮殿(ストックホルム)

の中に一人の女性の名前を見つけ、心をときめかせく再び逢える喜びよ>と歌う。しかしそれは自分の腹心の秘書、アンカストレム伯爵の妻アメリアの名だった。抑えなければいけない感情だと思い悩む国王を見て、伯爵は国王が反逆者のことで頭を悩ませていると思ひ、万が一の反乱に備えての注意を促す。まさか国王が、自分の妻への想いで悩んでいるとは考えもしなかった。続いてオスカルが判事を案内する。判事は最近人々を惑わす、ウルリカという評判の悪い女占い師を裁いてほしいと願い出る。国王がオスカルに意見を求めると、オスカルは「彼女の占いは素晴らしい」と言うので、国王は判決の前に皆で仮装して、その占い師の神秘の洞窟へ午前3時に予言を聞きに行くことにする。

第2場/ウルリカの家

深夜。占い師ウルリカの家からは、怪しげな呪文が聞こえてくるく地獄の王よ、急ぎたまえ>。仮装をした国王も中に入り、数人の男女に交じってウルリカの祈祷を聞いていた。水夫のクリスティアーノが現れ、手相を見てもらう。ウルリカは「すぐに金と地位が手に入る!」と予言する。それを耳にした国王が、彼のポケットにこっそり昇進通知とお金を入れたので、クリスティアーノは予言の正しさに驚く。そこへ「内密に占いを」と希望する者の使者が現れる。ウルリカは皆を別室へ移し、その人物を迎え入れた。気になった国王が物陰からそっと覗くと、その人物は国王が想いを寄せるアンカストレム伯爵の妻アメリアだった。彼女はウルリカに不実な恋を忘れる薬はないかと尋ね、真夜中に処刑台の下に生える草を取るようにと指示を受ける。アメリアが帰ると、オスカルや、密かに反乱の機会を狙うリッピング、ホルンなどやってくる。今度は国王が手相を見てもらう。ウルリカはすぐに彼が高貴な人物であると見抜き、そして「あなたはとても親しい人のかかかって死にます!」と予言する。国王は戯言だとそれを笑い飛ばし、いったい誰が私を殺すのかと尋ねると「あなたと最初に握手をした人物です」とウルリカは答えた。そこで国王は周りの皆に握手を求めるが、勿論誰も手を出そうとしない。そこへ国王の身を案じたアンカストレム伯爵が現れ、国王に求められるまま握手をしたので、皆はハッと息を呑んだ。国王は親友との握手に、そんな予言など益々あり得ないと笑い飛ばす。そこにクリスティアーノが市民を連れて登場、国王グスターヴォの栄光を讃える市民、一抹の不安を抱える国王、暗殺を計画する一味、未来を予言するウルリカなどによる大コンチェルトで第1幕が閉じる。

<第2幕>ストックホルム郊外の処刑場

真夜中。処刑台のある丘に、アメリアの姿があった。彼女はウルリカに言われた通り、辛い恋を忘れるために草を摘みにやってきたのだ。そこへ彼女に密かに想いを寄せる、国王グスターヴォが現れた。2人はここでお互いが愛し合っていることを知り、抑えていた想いを堪えきれずに「情熱的な二重唱」<私はあなたの傍に>を歌う。その時、アメリアの夫アンカストレム伯爵が、国王暗殺の企みがあると知らせにやってきた。アメリアは咄嗟にベールで顔を隠す。国王は不測の事態に、急いで伯爵とコートを取り替えその場から立ち去る。国王にベールの婦人を街へ送り届けるよう命令された伯爵だったが、すぐさま反逆者達がやってきてもみ合いとなる。そのとき間に入ったアメリアのベールが外れる。反逆者達は夫婦で逢引していると嘲笑し、伯爵は国王と妻が自分を裏切ったのかと怒る。

<第3幕>

第1場/アンカストレム伯爵の部屋

妻の裏切りに怒りが収まらないアンカストレム伯爵は、妻のアメリアに死を迫る。どんな言い訳も聞き入れてもらえないと悟ったアメリアは、死ぬ前にせめて息子に逢わせてほしいと懇願し部屋を出た。伯爵は国王の肖像画に向かい「お前が彼女の心を汚したのか」と歌い、裏切り者への怒りと、妻への切ない感情を露わにした。そこへ反逆者一味のリッピングとホルンが入って来た。国王に復讐することを誓った伯爵は、反逆者2人に国王暗殺への仲間入りを申し出ると、誰が暗殺を実行するか話し合う。そこへちょうどアメリアが戻って来たので、彼女にくじを引かせ、暗殺者を決めることにした。アメリアが引いたくじには、夫である伯爵の名が書かれていた。その時オスカルが、仮面舞踏会の招待状を持ってやってくる。反逆者達は暗殺の場を仮面舞踏会の会場に決め、合言葉として「復讐」を決める。国王の身を案じるアメリアなどによるコンチェルタンテ。

第2場/国王グスターヴォ三世の書斎

国王は、やはり腹心であり親友でもある、アンカストレム伯爵を裏切るような恋は諦めようと、彼を家族と共に、遠く離れた国外に就任する手はずを整えることとした。そしてく永遠に君を失わんと、アメリアへの想いを切々と歌う。そこへオスカルがやってきて、国王に1通の手紙を渡す。それは仮面舞踏会での暗殺計画を知らせる匿名の手紙であったが、国王は最後にもう一度愛するアメリアに逢いたいと思い、舞踏会への出席を決意する。

第3場/舞踏会の会場

華やかな仮面舞踏会の会場には、アンカストレム伯爵や反逆者達も紛れ、国王の暗殺の機会を窺っている。伯爵はオスカルに、国王がどんな仮装をしているか尋ねるが、勘のいいオスカルはとぼけて教えない。しかし緊急の要件だという伯爵の説得で、「黒マントでピンクのリボン」と漏らしてしまう。メヌエットが流れると、アメリアが国王に近付き危険をそっと知らせる。国王とアメリアとの情熱的な二重唱が終わろうとするとき、背後から伯爵が現れ、国王にピストルを発射する。取り押さえられマスクを剥がされた伯爵は、非難を浴びる。瀕死の国王は伯爵にこう言った。「私は確かにアメリアを愛していた。しかし彼女は潔白だ。君達を遠く離れた国外に榮転しようと思っていたのだ..」。そして懐から榮転の書類を取り出し伯爵に渡すと、祖国、友人、兵士たちに永遠の別れを告げ絶命する。(幕)

歌劇「グスターヴォ三世」作品解説

「グスターヴォ三世」(以下「G3」)は1857年ナポリで上演が予定され、全曲がほぼ完成されていたが、ナポリ当局の検閲により上演が中止となりました。ヴェルディは本意ではなかったものの、舞台をアメリカに変更、音楽も多少手を入れ、1859年ローマで上演されたのが、現在私たちが目にする「仮面舞踏会」(以下「仮面」)です。このように「仮面」の原典版ともいえる「G3」は実際には上演されませんでしたから、本日の公演は、ナポリでの検閲がなかったとしたら上演されていたであろう、想像上の再演ともいえます。

「G3」はざっと8割が史実の、歴史オペラです。グスターヴォとアメーリアとの恋愛、アンカストレムがグスターヴォの腹心であったということ、あるいは狂言回しとしてのオスカルは、オペラとして成立するための創作です。一方「仮面」は、舞台がアメリカ・ボストンであり、当地に総督がいたこともなければ、当時仮面舞踏会が開かれた記録もないことから、あくまでも、グスタフ3世暗殺事件を原作として、禁断の恋を描いた、恋愛オペラと言えます。だから上演が許可されたとも言えます。

「仮面」は例えるならば宝石です。しかしその輝きのあまり、主役であるはずのボストン総督リッカルドの影は薄れ、アメーリアやレナートが主役なのでは？と迷わされます。一方の「G3」は巨大な原石です。1792年3月16日グスタフ3世がストックホルムのオペラ座で開かれた仮面舞踏会で銃撃された事件は、世界を震撼させました。表紙に掲載した、グスタフ3世が暗殺された当日の衣装は、今尚、私たちに多くを語りかけます。

「仮面」の舞台をスウェーデンに戻す試みは、20世紀から数多く行われてきました。最近でも「G3」世界初の映像!と銘打ったブルーレイが発売されましたが、内容は「仮面」の音楽そのまま、登場人物が変更されているだけの見掛け倒しです。当会では、ヴェルディ没後200周年を機に、ナポリで発見された検閲以前の『仮面の復讐〜グスターヴォ3世』の原稿を元に、2002年スウェーデンで上演された、いわゆるナリッチ版と、1859年の「仮面」初演時の楽譜を融合させ、独自の楽譜を編集・製作して上演します。編集方針としては、当時44歳のヴェルディが、何の制限もなく、自由に上演することができたならば、どのような公演になっていたか?を追求しました。

なお「G3」のおよそ6割は「仮面」と同一です。3割ほどが大幅に書き換えられ、残りの1割は全く別の音楽です。この書き換えられた最大の理由は、歌手からの要求と考えられます。例えば第1幕のオスカルのアリアは「仮面」では半音下げられています。「G3」と「仮面」の顕著な違いは、第2幕以降の各ソリストのアリアです。特に第3幕のアンカストレムのアリアは「仮面」と全く異なっています。「仮面」ではレナートの名アリア「おまえであったか、この魂を」でリッカルドの裏切りに憤りを募らせます。一方「G3」では、極限までアンカストレムの心の苦しみが歌われます。どちらも名曲で、この一曲によりオペラの全体像が変わります。

なお台本では、グスターヴォは「剣で刺される」とされていますが、今回の公演は史実に基づき「ピストルでの暗殺」に変更いたします。

「仮面」を人類の遺産として残したのは、音楽家や批評家ではなく、世界の観客です。「グスターヴォ三世」が学術資料としてではなく、ヴェルディの作品として、人類の遺産となるか否か…その責任は私たちにあり、それを決めるのは、今日お越しの皆様です。

参考文献：さまよえる『仮面舞踏会』：歌劇『仮面舞踏会』の場面設定を巡って(本間晴樹) 2002年イェーテボリで上演された「グスターヴォ三世」のライブCDのライナーノート 他

日本橋オペラ2023

「日本初演のオペラ」シリーズ 第3回

歌劇「グスターヴォ三世」(日本初演)

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ

原作：ウジェーヌ・スクリーブ 台本：アントニオ・ソンマ

(仮面舞踏会原典版・日本橋オペラ研究会編)

イタリア語上演・日本語字幕付／ピアノ伴奏版

2023年11月15日(水)14:00開演 日本橋劇場(日本橋公会堂4F)

演出・公演監督／福田祥子

指揮／佐々木 修

ピアノ／伊藤友香

《配役》

村上敏明／テノール／グスターヴォ三世

寺田功治／バリトン／アンカストレム伯爵

森 朋子／ソプラノ／オスカル

星田裕治／バス・バリトン／ホルン

種子島史時／テノール／判事

福田祥子／ソプラノ／アメーリア

森山京子／メゾソプラノ／ウルリカ

川ノ上 聡／バス・バリトン／リップング

野村光洋／バリトン／クリスティアーノ

根岸一郎／テノール／召使

《アンサンブル》

高橋千夏／ソプラノ 森井美貴／ソプラノ 東山桃子／ソプラノ 石井揚子／ソプラノ

伊藤いずみ／ソプラノ 窪 瑤子／メゾソプラノ 宇津木明香音／メゾソプラノ 佐々木暁美／メゾソプラノ

西山詩苑／テノール 町村 彰／テノール 佐保祐弥／テノール 山本雄太／テノール

原田 光／バリトン 服部聖人／バリトン 倍田大生／バス

舞台監督／菅野 将

照明・舞台／(株)フルスペック

衣裳／てっしー ヘアメイク／エイミー前田
稽古ピアノ／鈴木架哉子、松岡なぎさ、吉田サハラ

全席指定席 S席10,000円 A席7,000円

主催：日本橋オペラ研究会(中央区社会教育団体)

共催：一般社団法人日本橋オペラ研究会

日本橋オペラ後援企業(2023年10月1日現在)

TOYOBO



Korino.I

医療法人
小池医院

Anytime
healthcare
consulting

